

令和2年度宇和島市地域自立支援協議会全体会概要

日 時：令和3年3月15日 月曜日 15時～16時50分

場 所：宇和島市役所地下会議室

出席者：宇和島市地域自立支援協議会委員15名（代理1名）

相談支援事業所6名、福祉課（事務局）7名

1 開会挨拶

【福祉課長挨拶】

2 委員紹介

【出席委員、相談支援専門員、事務局自己紹介】

3 議事

(1) 令和2年度活動報告

- ・自立支援協議会の目的、しくみについて
- ・全体会、運営会議及び相談支援調整会議、部会について報告

(2) 令和2年度実施事業について

① 宇和島市障がい者計画・障がい福祉計画（第6期）について （質疑等）

○理念、基本、大事なことだと思うが、基本理念として「宇和島ノーマライゼーションプラン」とあるが、福祉の仕事に関わってる方はすぐ分かると思うが、それ以外の第三者には分かりにくい。
→基本理念「うわじまノーマライゼーションプラン」の下に説明を入れているが、もっと分かりやすく見えるような形を引き続いて検討していく。

○施策の展開のところで、8番と9番の基本目標のところが同じになっている。
→資料の誤り。正しい内容は計画書に記載のとおり。

○計画が終わるたびに前回の検討や検証はしたのかという話をいつもする。これはできたこれはできなかったという検証をしてほしい。

→計画検討委員会の中でも意見をいただいた。障害者計画の部分について、進捗管理シートを作り半期に1回ほど進捗状況の管理をして検討委員会の委員に確認後、ホームページ等々で公表する予定。

② 発達障がい支援について （質疑等）

○虐待を受けている人は発達障がいと似たような症状であることもある。また、精神的なトラウマを受け大人になってもずっとそれが続いているような人達によく遭遇する。子供のうちに、きちんと対応できるものはすべきではないかと感じている。

→今年度対応した中には、大人になって自分が発達障がいじゃないかと気づいた方も中にはいる。

大学を出て就職した後に、他の方とのコミュニケーションのつまずき等があり、自分で文献を読み調べる中で、発達障がいではないかと気づいた方もいた。障がいを持ち結婚されてる方もいるが、子育てをする中でとても大きなつまずきを感じている方もいる。障がいの特性によっては子育ての育てにくさがある方もあり、そこが虐待に繋がっているのかもしれないと多々感じることもある。障がいから二次障がいを起こし、家族の中で暴力や暴言、学校での問題行動等が起こっている児もおり、医療機関など含めて、ケース会議などを何回も実施している方もいる。障害があるかどうかわかってない段階で相談にくる方もいるが、まずは母親の困りごとに寄り添うことを大事に考えている。障がい云々ではなく、今日の前に見えている困り事に対して、助言できることがあればしている。また、関係する機関と一緒に良い支援を考えているが、日々勉強の途中で十分に専門的なことが言えるかまだ難しいところであるが、いろんな機関の方に助けていただきながら、支援をしている状況である。

○虐待を受けている児で、発達障がいと同じような症状を呈している児がたくさんおり、どっちが先なのかわからないところもある。発達障がいのように育てにくさがあることで、親がつい手が出てしまうとか、親も虐待を受けて育ちそういう育て方しか知らない、できないことでつい手が出てしまう。虐待を受けたことで発達障がいのような症状を出してる児も両方いるのではないかなと思う。特に最近はそのような児が多いと感じる。

○虐待はなかなか難しいが、やはり本人自身が非常に対人関係が難しいため、それがリスクとなって虐待に結びつくケースもある。親にも発達障がいがあるというケースもあり、非常に難しいし対応に困る。家庭内暴力等もあるが、原因か結果でしかわからない。ケースごとに、とにかく支援をしていかないといけない。市の活動として、学校に訪問しケース会議等に参加しているのか。→学校を交えてのケース会議もあるが数としては多くはない。相談窓口ができ、ある母親から学校とのやりとりでつまずき、親自身も子供との関わりに困ってるとの相談があり、市から学校にケース会議をして欲しいと持ちかけた事例もある。また、学校の先生から特別支援学級に在籍しているが、使えるサービスはないかという質問を受け、保護者と学校と市が面談し、利用できるサービスを説明後うまく繋がった事例もあった。

○家族と学校がうまくいかない事例も結構あると思うが、今後、学校も気軽に市に相談し、市がうまく調整していくという機能があれば助かる。学校もそういうサービスが市にあることを周知し、繋がりがしっかりできれば子供は助かると思う。

○昨年度に比べ今年度ケース会議に参加する機会が本当に増えた。関係諸機関の連携が図れてきたとらえている。

○令和3年度から始める巡回相談は、就学前から各現場に入りその個別事例に合わせて状態を見ていけるとりかかりになることは、非常に大きいと思う。これが、継続してその後の子供たちの育ちに、良い方向性で関わりが増えていければ、虐待や育てにくさ、育てにくさのケアに繋がっていくのではないかなと思う。それを引き続き小学校にへどう引き継いでいくのか。小学校、中学校それぞれ環境が大きく変わる中で、子供達はつまずき親も情報が得られず困ったままの状態がダイレクトに子供に現れてしまう。今後の巡回相談等と発達支援の取り組みを通して、もっといい

方向に変わっていきける見込みがあるのではないかと考えている。

○それぞれのライフステージの節目で、つまずきがあるということの指摘があったが、子供部会からの活動報告にもリレーファイルの活用について、そのガイドの必要性の有無を検討するというテーマもあった。このリレーファイルは本当に有効だと思っている。県外では、これを学校と地域と保護者とお互いが共有しながら使っているという実績もある。その子の特性やつまずき、強みや弱みを理解してもらうこと、これがすごくその場の環境の適用においては重要かと考える。ぜひこれについては進めていただき使いやすいファイルを検討してほしい。

○知的障害者の子供を持つ親として、自分自身は子供のことを自閉気味だなどと思い理解し対応したが、仲間の中でも、子供に障がいがあることを認めない親も多い。理解できている親はいいが、絶対に認めない親がいる。親の勉強も必要だと思う。

4 令和3年度活動方針（案）について

（質疑等）

○とにかく行政は、実態把握、課題を整理するとあげる。課題はもうある程度わかっているのではないかと。その課題や実態を把握し、今後どうするか対策や施策を考える方針に持って行ってほしい。
→1つ1つできることを進めていきたい。

○支援する側はたくさんいるが、やっぱり当事者の人達がこういう場に出てくること。発達障がいや精神障がい、それともピアサポーターという感じや身体の方は車椅子とかで参加することも地域包括ケアの中では大事。

→何かする前には「自分たちの意見も」とよく言われる。検討段階から意見がいただけるような形で、取り組みができたと思う。

○登校できない子供達の居場所として、地域によってはフリースクールがありそこで過ごすことができる。宇和島にはフリースクールのようなものがない。何とかならないかと思う。県外では放課後等デイサービスが利用できると聞いた。外で他の人と繋がるような場所があればいいと思う。検討してほしい。

→放課後等デイサービス事業所については、不登校の児童も利用されている。関係機関と相談しながら考えていきたい。

○学校現場として、大変重要な課題だと認識している。民間のフリースクールも幾つかできているという話は聞いてるが、宇和島市として今1人1台iPad端末の導入が、1月に完了した。家庭と教室等をZoomで繋いでオンラインで授業を受けた場合に、それを出席として扱うという文部科学省から指針が3月末までに出る。宇和島市として、その出席の扱いというのを制度化し運営するという形を考えている。それによりその子の学習保障として他の子たちとの繋がりが確保できるのではないかと考えている。

○発達障がいは、本当に奥深いという感じを受けた。地域で考えていく必要があると思う。

- 特別支援学校は、毎年、年度当初にB型を利用するためのアセスメントをするが、南予圏域だと宇和島市だけ市から文書を出していただいている。他の市町にもそういう文書を出してもらえないかという話をするが出してもらえない。今後とも教育活動にご協力いただきたい。
- 障がいのある方々の就労の支援をしているが、事業者への訪問が非常に難しい状況があり雇用されている方々の定着支援が難しい。事業者からの相談や本人の困り感をタイムリーに聞けない状況が、今までと違う形で出てきたと思っている。支援についても、私たち自身の支援の方法も考えていく必要がある。本人と連絡を取る手段や方法を試していく必要があると思っている。Web会議で研修とかも考えているが、これまでとは違う形のものを、障がいのある方々も利用ができたり便利なツールとして活用できる機会に向けて我々も勉強も進めていきたいと思っている。
- 高校までの各教育現場の連携ってというのが、早く充実して欲しい希望がある。実際に就職についての相談が、高校、一般高校と最近多くなっている。就労の現場で理解が得られて手帳の交付までつなげた事例もある。そういった関係が重要だと痛感した。卒業見込み、或いは既卒3年の方は連携ができてる。問題は、それを過ぎてる青年の方が、相談窓口がないと思いついて入る方が結構多い。一般の求職者、青年の方々への支援にまでこの連携が繋がっていくとありがたい。就労先の事業所の確保も一番今課題。情報提供いただきながら少しでも就労につなげていきたい。
- 民児協としては、弱い人、待っている人に寄り添い見守り、それを公に繋げるというシステムで動いている。みんなの意見を聞き、民生委員はタッチしてないという反省をもった。民生委員は児童委員も兼ねているため、「あんたら頼まい」ということがあれば、283名いるので言ってほしい。宇和島市には、サポーター制度を導入している。虐待などどういう状況がサインなのか専門家の方に是非とも、教えていただきたい。
- 親亡きあとのことを真剣に考えていない。施設がないと宇和島市には住めないと思っている。
- 親の子供に対する暴力とかについては、正しい教育、正しい指導にもっと心がけないといけない。障がい者に対しても偏見や差別もある。
- 親なき後の相談のことは、現場ですごく実感している。親にその気持ちがなければ、情報提供もできない難しさがある。利用できる制度もあるが、求めてなければなかなか提供できない。成功事例が親同士の中にあれば、会とかで話していただければ少しずつでも繋がっていくのではないかと実感している。

5 閉会